

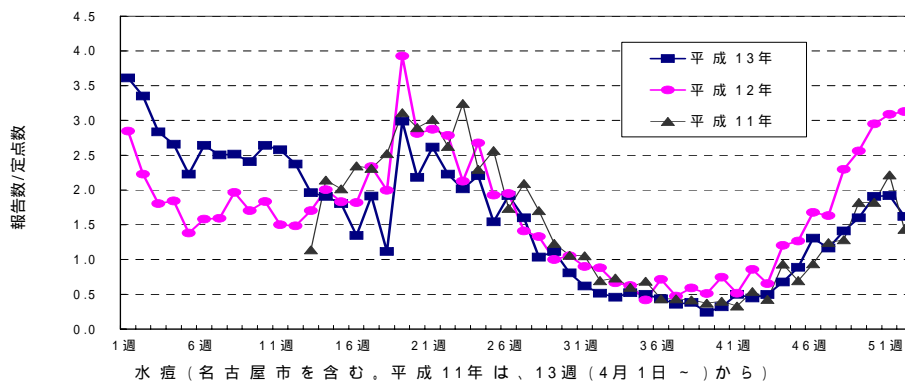
# 愛知県感染症情報

## 平成 13 年第 52 週（12 月第 4 週）

（コメント）

インフルエンザは流行が始まっています。特に豊橋地区での報告数が多いようです。インフルエンザの流行予測については、愛知県衛生研究所のホームページ（<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>）をご覧ください。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎及び水痘は依然流行していますので注意してください。



（定点の先生方からのコメント）

### ● 尾張西部地区

- ・ 病原性大腸菌感染者（01 5 歳女、7 歳女と 06 2 歳女と 018 30 歳女）インフルエンザ様症状が多いです。

カンピロバクター 8 歳女

（尾西市 城後小児科）

- ・ 病原性大腸菌 06 1 歳男。溶連菌はほぼ終息したようです。

（犬山市 武内医院）

- ・ 胃腸炎多し。インフルはまだです。

（岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック）

- ・ 嘔吐を伴う感染性胃腸炎の流行が続いています。

（江南市 みやぐちこどもクリニック）

### ● 尾張東部地区

- ・ マイコプラズマ肺炎は相変わらず多く（3～4 歳、6 名）、流行の様です。A 型インフルエンザ 3 名（1～4 歳）、B 型インフルエンザ（12 歳）ありました。細気管支炎での入院例もあります。

(瀬戸市 津田こどもクリニック)

- ・ 溶連菌感染症はまだ流行続いています。マイコプラズマ感染症も成人、小児共に多くみられます。水痘散発。発熱、嘔吐まだ目立ちますが、2日程度で症状改善(下痢を伴う症例少ない)。インフルエンザは全くありません。

(尾張旭市 佐伯小児科医院)

- ・ 鼻汁にてRSV抗原(+)の毛細気管支炎(2ヶ月)4名続く

(美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)

- ・ EBウイルス感染症の4歳男児1例あり。重症の急性化膿性扁桃炎を合併していました。今週も感染性胃腸炎が多くみられました。溶連菌による化膿性扁桃炎4歳女児1例ありました。

(春日井市 かちがわ北病院)

- ・ 胃腸かぜの流行が続いています。(4週目)水痘も多く見られる。

(春日井市 朝宮こどもクリニック)

- ・ 感染性胃腸炎多くなる。気管支炎多し。インフルエンザ流行なし。

(小牧市 小牧市民病院)

- ・ 帯状疱疹 4歳女。嘔吐を主訴とする胃腸炎がまだ流行中。

(東海市 小児科ハヤカワ医院)

#### ● 西三河地区

- ・ サルモネラ sp 08G 1歳女。不全型 川崎病

(豊田市 やふそ小児科)

- ・ インフルABクイック\* (A型 6歳男、B型 2歳男)

RSテスト陽性 4歳男。カンピロバクター腸炎 3歳男

マイコプラズマ肺炎 1歳女

(豊田市 星ヶ丘田中こどもクリニック)

インフルABクイック\* : A型及びB型インフルエンザウイルスを検出する迅速診断キットの一種。

- ・ 年齢に関係なく発熱を伴う嘔吐・下痢症多し、ウイルス性?

(岡崎市 小児科延寿堂杉浦医院)

- ・ ロタウイルス(1歳男4名、1歳、2歳女各1名)

(岡崎市 深田小児科)

- ・ りんご病(伝染性紅斑)が散発しています。

(岡崎市 花田こどもクリニック)

- ・ A 型 B 型混合 1 歳男（インフル AB クイック（＋））  
A 型インフルエンザ 3 歳男（インフル AB クイック A（＋））  
（岡崎市 にいのみ小児科）
- ・ インフルエンザ B 11 歳（インフルエンザ AB クイック陽性）  
（西尾市 やすい小児科）
- ・ ようやく胃腸カゼ減少しました。  
（西尾市 山岸クリニック）
- 東三河地区
  - ・ インフル AB クイック A 型（＋）2 名 B 型（＋）2 名  
（豊橋市 こどもの国大谷小児科）

（1～3類感染症の発生状況）

- ・ パラチフス患者 1 名。  
津島保健所から報告の 23 歳男。12/22 発病、12/24 初診、12/28  
診定。菌型は、02。インド渡航歴あり。

（全数把握の 4 類感染症の発生状況）  
報告はありません。

#### ● 愛知県病原体検出情報

名古屋市内の病院において平成 13 年 12 月 18 日に 5 歳の男児のインフルエンザ患者から採取された鼻汁吸引液から A 香港型インフルエンザウイルスが、また 12 月 30 日に 9 歳の女児から採取された鼻汁吸引液から B 型インフルエンザウイルスが分離されました。抗原性は A 香港型はワクチン株と類似しており、B 型ウイルスはヴィクトリアタイプでありました。B 型ヴィクトリアタイプのウイルスは流行前の感受性調査により県内住民はほとんど抗体を獲得していないことが明らかとなっており、今後注意が必要と考えられます。

#### 第 50 週（12 月 10 日～12 月 16 日）の 4 類感染症の全国状況

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘は年末のピークに向けて報告数の増加がみられている。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は例年の同時期よりやや多くなっており、山形県で 6.0 と多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、宮崎県（37.5）、大分県（27.1）、石川県（23.9）などが多くなっている。水痘の定点当たり報告数が多くなっているのは、鳥取県（5.3）、山

形県（5.1）、大分県（4.4）などである。伝染性紅斑は流行期ではないが、過去5年間の同時期と比べると定点当たり報告数がやや多くなっている。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は第19週より、過去10年間の同時期と比べて最大の数値が持続しており、都道府県別では石川県（8.0）、長野県（5.5）、沖縄県（5.2）などの報告が多くなっている。流行性角結膜炎は、宮崎県で定点当たり報告数が5.3と多くなっている。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、第14週より、過去2年間の同時期と比べて最大の数値が持続している。

（Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供）